

OPAC 通信

Transforming Okinawa's Heart into Action

Okinawa
Peace Assistance
Center

特定非営利活動法人
沖縄平和協力センター (OPAC)
沖縄県那覇市久米 1-5-18 稲福ビル 201-B
TEL (098) 866-4635 / FAX (098) 866-4638

www.opac.or.jp
(<http://blog.livedoor.jp/opac/>)

2012. January



OPACのロゴマーク
沖縄を飛び出し世界の
現場で活躍することを
イメージしました。

仏語圏アフリカ平和構築研修員が来沖！

仏語圏アフリカ地域は90年代以降、紛争を経験し社会の疲弊や不安が増長している地域です。これらの紛争経験国の背景として政府機構が脆弱で十分なガバナンス能力を有していないという共通の課題が存在します。現在、日本を含めた諸外国からの支援のもと、当該地域の平和定着及び持続可能な開発の実現に向けた努力が続けられています。

OPACでは、1月24日と25日の2日間、JICA 地域別研修「仏語圏アフリカ平和構築」の一部（沖縄研修部分）として、研修を実施しました。11名の研修員がコンゴ民主共和国やチャドなどから来沖。日本の戦後復興における経験や治安セクターの行政システムについて学びました。

今回の研修は、参加国の治安セクターの中堅行政官を対象とし、目指すべき平和な国家像や行政官としての姿を見直すことを目標としたものです。研修では、沖縄平和祈念資料館や宜野湾市役所、浦添警察署など県内各地の平和と行政に関する施設を訪れ、講義や視察を行いました。

宜野湾市役所では、米軍基地問題の現状などの説明を受け、住民の方との意見交換も行いました。欧米諸国と地位協定を結んでいる参加国も多く、沖縄が現場として直面している日米地位協定の問題点に強い関心を寄せている様子が窺えました。

浦添警察署では、日本の警察組織が地域住民との信頼醸成によって、地域と一体化した防犯・治安対策に取り組んでいるという、地域に根差した治安維持の形を学びました。



浦添警察署（仲間交番所）を視察する研修者

治安維持には銃などの威圧的措置が必要と考え、地域住民との信頼醸成が不足している参加国の研修員は、日本のこうした治安維持の形と、信頼を受けるための警察官の高度な資質と訓練に驚きが隠せない様子でした。

日本の中でも、地上戦や米国による統治を体験し、復興を遂げてきた沖縄だからこそ、本土とは違った経験や行政システムの姿を伝えることができました。沖縄の知識と経験が紛争経験国のガバナンス能力向上に寄与しています。



沖縄県平和祈念公園「平和の礎」を視察する研修員

編集後記

OPAC 通信 1月号を担当した琉球大学2年次の今福聡です。OPACで現在、インターン生として関わらせて頂いております。今回のインターンで一番意識・実感したことは、自らができることを考え、相手のことを考えた行動をすることの大切さです。平和構築や安全保障分野に関する国際協力活動・啓蒙活動をなす時、日本の中でも、沖縄でしか学べないこと、沖縄だからこそ伝えられること、というものが数多く存在します。そのような独自の経験を発信することで、世界の平和構築や安全保障問題の解決に繋がることを実感しました。このように自らの能力や経験を踏まえて、相手を思いやった上での行動は、日常生活においても大切なことであると思います。今後も様々な場面で自らの役割を模索していきたいです。拙い文章でしたが、読んで下さってありがとうございました。（今福）